

お天守だより

丸岡観光ボランティアガイド広報誌

お天守だより

第7号

丸岡藩創立四百年に期待

会長 大霜徹夫

お城の観光客が確実に戻っています。昨年度はコロナ前の4分の3まで回復し、今年も順調に増えています。来年は北陸新幹線が敦賀まで開通し、さらに多くの県外客が期待できそうです。

丸岡城は小さいお天守ですが、他城にない日本一の魅力がいっぱいです。白木のまの素朴な外観や石瓦の屋根、阿吽の鬼瓦、天守台石垣、水切り、急階段など、訪れた小学生たちに話すとみんな目を輝かせて聞いてくれます。

来年は「丸岡藩創立四百年」の年です。今からPRを強化し、イベントや受け入れ体制に万全を期したいものです。

当協会でも、引き続き会員の増加と対応の向上に努め、県外のお城見学やおもてなし講座などを、自由な雰囲気楽しんでいきます。

丸岡ボランティアガイド
《只今、会員募集中》



(昨年の安土城跡研修)

プロジェクトンマッピングのガイドをして

高橋哲夫

丸岡城のプロジェクトンマッピング（以下マッピングと略す）とは、お天守をスクリーンとして映像を投影する技法である。丸岡城のマッピングは令和3年3月にスタートし、内容を増やしながら桜まつりなどのイベントに使われた。そして昨年の11月からバスツアーの観光客にガイドすることになった。一筆啓上茶屋前でのバスのお出迎えから始まり、お天守前広場までの案内、広場での丸岡城の特徴やマッピングで投影される映像の紹介等だ。

夕方から夜のガイドということで想定外なことも。映写機の電源が落ちていたことがあった。この時は坂井市の担当の職員が応援に駆けつけ、ガイド担当者は電源が復旧するまで丸岡城の話をつなぎながら何とか乗り切った。

また同じようなことで、今年5月に次のような出来事があった。午後7時20分にマッピング開始予定なのに、6時35分にバスが到着した。34人の団体客である。でもまだ日没していなくて明るい。急いで頭の中を整理し、ガイド時間の配分を考える。一筆啓上茶屋前で10分、お天守広場前まで5分、お天守前で30分の合計45分間……。

さあガイド開始だ。まず茶屋前では、丸岡城の城郭についての説明から始めた。行灯に書かれている一筆啓上賞作品についての説明もした。お天守前では、現存する12天守の一つであることや、築城の歴史、外観の特徴についての話をした。時折時計をチェックするが、時間が思った程進んでいない。焦りが少し出て来た。さらに、お天守内部の事や、以前は国宝であった事などを説明していると、ようやく日が暮れかけて来た。あと少しだ！最後に、これから映し出されるマッピングの紹介を終えると放映が始まった。丁度、午後7時20分だ。カウントダウンに始まり、丸岡城にまつわる伝説編、そして平和の祈り編である。約15分間が直ぐに終わった。お客様に感想を聞く大きな拍手で応えてくれた。ホッとする間もなく、この後はバスまでの誘導だ。バスが発券する際に一緒にいたスタッフらと手を振ってお見送りすると、バスの中からも沢山のお客様が手を振ってくれた。嬉しい！ガイド冥利に尽きる一瞬だ。次も頑張ろう！



金沢長町観光ガイド視察

源ひとみ

3月15日、坂井市主催の観光ガイド視察が金沢で行われ、当会からは6名、三国からはボランティアガイドきたまえさんの参加でした。金沢といえば戦災に遭わず古い町並みが残っている印象なので、ガイドのお勉強が観光気分だったかもしれません。

視察先は長町でここを訪れるのは2度目ですが、今回はガイドさんの説明のおかげで、至る所で美の魅力に感心させられました。特に「こも」と言う石灯籠を冬の積雪や凍結による破損から守るために巻いたむしろです。とてもユーモラスで、土堀を守るためにも、毎年こも掛けをする事等、お話内容は目から鱗が落ちたようで、ガイドさんの役割の大きさを感じさせられた一日でした。



その後、三国から参加されたガイドさん達も含めて意見交換会があり、長年の経験を踏まえたお話を伺う事が出来、とても勉強になりました。これからの目標にさせて頂きたいと思えました。

お天守だより

ガイド体験談

丸岡城ボランティアガイド

吉田正子

丸岡城は、四季の風景がとても美しく、二重三階の凜として立っている古いお城です。このお城に魅せられて、友人がガイドの話を持って来た時、すぐ入会しました。

この頃はまた、コロナが流行する少し前で、お城の勉強会や講習会、先輩の後について行くのが楽しみでした。少し分かるようになると、青いTシャツの背中に、白色で、城と丸岡ボランティアガイドと書かれた、格好いいユニフォームを着るのも楽しみでした。

初めてのガイドは、長野県松本市から来た若いカップルでした。ガイドの名札を見せ、「若葉マークがついていますが」と念を押し、城の高さから始まり、一階では柱は太い、二階では高いところに狭間があるなど話を進め、三階で案内していると国宝の話が出て、「丸岡城も国宝でしょう」と言われたので、「松本城のように、確定した証がないので、今は重要文化財です」と言いましたが少し寂しい気持ちになりました。でも「丸岡城小さいけれど、眺めも良く、風情があるお城ですね」と言われたので、とてもうれ

しかったことを覚えていきます。

コロナが流行し始め、ガイド活動に制限がかり、マスクをつけての案内で、言葉をはっきり伝えにくくなり、申し訳ない気持ちになったこともありました。また、NHKの大河ドラマの影響で、織田信長、明智光秀、朝倉義景、小説『塞王の楯』に出て来る穴太衆の石垣の話などで盛り上がることもありました。『日本一〇〇名城に行こう』の本を持っている人、お城大好きなお城女子の人、その中に「古風な所がともいいわ、また来ますね」と言いつて握手してくれた人もいました。

最近、流行しているプロジェクトインマッピング、丸岡城でも連日映写されています。そして去年の11月からこれを紹介するバスツアーのガイドを始められています。ただ夕方から夜の活動なので、私はあまり参加できていません。また特に冬場は天気も気になるところ。ある日の参加した時のことです。雷が鳴り、小雨降る寒い日でした。映写が終わってからバスツアーのお客様が「すごく寒かったけど、とても良かったです。ありがとう」と言ってくれました。うれしかったので今でも心に残っています。丸岡城ボランティアガイド、今後も楽しく続けて行きたいと思っています。

お城解説の手話化

坂本美恵子

耳の聞こえない方が『どこへ観光に行っても手話で説明してもらえない社会になったらい』そんな願いに応えたいと、観光ボランティアガイドと手話サークル、それぞれから有志が集まって、丸岡城の説明を手話で表現できるように学習を重ねています。

手話の表現で難しいのが歴史上の人物の名前や、櫓・望楼型・笏谷石といったお城ならではの単語です。ろう教育では歴史の勉強は少なく、それらはどう手話で表現するかはろう者にとっても難題と言えます。指文字だけでは意味が伝わりにくく、ろう者と相談しながら、そのものの形や様子を表現したり、図や写真を併用したりして工夫しています。

手話サークル員は手話を身に付けて、丸岡城の歴史を勉強したりと、まだまだ時間が足りません。来年3月の新幹線福井開通で、これからはろう者の観光客も増えるかも知れません。早く解説の手話化をすすめ、おもてなしに生かしたいと思っています。



お城・・・曲げ鯰
た人差指で
の形に

丸岡城ガイド・ごぼれ話

水野信好

⑦一筆啓上碑、どこにありますか？

観光客からよく尋ねられる質問をQ&A集にした「ツワブキの花」から今回は一筆啓上碑の小ネタを紹介します。
実はこの同じ銘文の石碑、愛知県岡崎市と茨城県の取手市（とりでし）にもあります。岡崎市は本多重次の生誕の地であり、取手市は終焉の地でもあります。

岡崎市の「一筆啓上・作左の会」が平成11年に発足され、地域振興の活動をされています。例えば丸岡町の日本一短い手紙に近い取り組みとして、俳句や短歌のふるさと賞を実施しています。この会を知ったきっかけは、平成28年6月丸岡城に研修旅行にいられたことでした。丸岡町が先に一筆啓上賞を立ち上げましたが、本来は本多重次の生誕の地である岡崎市が本多重次の菩提寺である本願寺の境内の石碑とお墓です。ここで些細なことです「馬肥やせ」と「馬肥せ」。丸岡はどちらでしょう？



本願寺
本多重次の菩提寺である本願寺には、重次葬用の甲冑等はほぼ焼却処分されています。境内には「一筆啓上」の手紙の碑も建立されています。